

こうほう ショッキング

Vol,70

Kōhō shocking



ながせ みさこ
長瀬 美子さん

●プロフィール

41歳。厳原町出身。元来、人と話すのが好きだったことから、対馬高校卒業後ハウステンボスにあるホテルに就職。3年間接客業務を経験した。30歳で結婚。平成24年9月、女性よさこいグループ「桜雪Ma-u」を立ち上げ、観客に元気と笑顔を届けている。昨年、対馬市福岡事務所から「つしまドンナナ」に任命された。夫と10歳の娘との3人暮らし。厳原町西里在住。

○よさこいグループを結成するきっかけは？

市役所の阿比留正臣さんが山口県に出張の際、よさこいの市民グループの活動を見て「対馬でもできる活動だ」と結成を勧められました。私、小さい頃からパーティーの司会やレクリエーションの仕切り屋だったんです。お話をいただいた時「対馬でもよさこいで盛り上がりたいたい」と思い、早速メンバー集めを始めました。オリジナル曲を作る資金を集めるため、フリーマーケットを開催したり市民の方に寄付をお願いしたりしました。

○ダンスの経験は？

踊りは好きでした。でも経験はありません(笑)。集まった団員には日本舞踊の経験者が少々ほとんどみんなが素人でした。プロの方に振り付けを作ってもらい、DVDを見ながらみんなひたすら練習します。20名ほどのスタートでしたが、家庭の事情などもありメンバーが10名を切ったこともありました。でも、よさこいが好きだという思いが強かったから頑張りました。ケーブルテレビや広報つしまで取り上げていただき、認知度が徐々に上がってくると見学者が増え、メンバーに入ってくれました。一昨年前の8月、対馬厳

原港まつりでオリジナル曲「つしまそびき唄」に合わせた踊りを初披露した時は、メンバーも30人を超えていました。皆さんからの寄付で完成した踊りを披露できた感謝の気持ちと、お客さんからの拍手、踊れる楽しさと嬉しさで、本当に泣きそうでした。

○「つしまそびき唄」との出会い

厳原町の上野さんが作詞作曲したフォーク調の「そびき唄」を、よさこい作曲では有名な方に編曲していただきました。歌詞に対馬の方言がたくさん使われているので、意味を理解しながらの編曲作業にはたくさんの方の打ち合わせが必要だったそうです。実は、編曲者は全盲のギタリストなんです。対馬は見たことがないけれど、歌詞から対馬の風景を想像しながら曲作りをしてくださったと聞きました。いつか彼のギター演奏とジョイントしたいです。

○よさこいの認知度も上がってきましたね。

対馬市市制10周年の式典で、対馬市誕生と同じ年の子どもたち「つしまそびき唄」を踊ってもらいました。今でも私たちに合わせて踊ってくれる姿をイベントで見かけると、嬉しくな

ります。対馬の歌「そびき唄」をずっと覚えていてくれたらいいですね。子どもは覚えるのも早いし、踊りも上手。現在、対馬島内によさこいのチームが4つありますが、中学校や高校にもよさこいサークルができたらいいなと期待しています。対馬の歌と、みんなの元気を踊りに込めて、島内外で踊ってほしいです。

○よさこいに注ぐパワーの源は？

笑顔ですね。楽しそうに踊っている姿は、見ている人たちを笑顔にしてくれますし、踊る自分自身も元気になって、笑顔になります。そしてもう一つ、よさこいの魅力は、出逢い。よさこいを通じた多くの方との出逢いは、私にとって宝物です。あとは笑顔で踊り切る体力を保たないと(笑)。現在メンバー53名、これからもチーム一丸となって対馬に笑顔と元気をそびきたいです。そして、若い世代の方にもよさこいの楽しさを共有したいです。興味のある方は声をかけてください。

毎回、登場して下さった方、次の方をご紹介いただきこのコーナー。次回は厳原町今屋敷にお住まいの吉永定史さんです。お楽しみに。